

2018年（平成30年）12月1日（土曜日）

福 島 民 報



32年ぶりに福島大合格

▲ 好間高の太田恭平さん
「将来は地域に寄り添う仕事に」

いわき市の好間高の太田恭平さん（三年）は福島大行政政策学類に推薦で合格した。同大への現役合格は三十二年ぶり。

太田さんは二年生の十月から生徒会長として学校行事を率先して主導してきた。また、県高校生地域貢献サミットへ参加するなど学外活動にも力を入れてきた。少子高齢化や商店街衰退など地域の課題

題解決法を学びたいと考え、同大の受験を決めた。夏休み明けから担任の有賀美里教諭、学年主任の馬上義克教諭、進路指導主事の鈴木英俊教諭らの指導を受けながら受験対策を進めてきた。

太田さんは「努力が報われてうれしい。将来は地域に寄り添い、課題解決を手伝える仕事に就きたい」と語った。夏目利江子校長は「いわき市のリーダーとして活躍してほしい」と期待を寄せた。

右から鈴木教諭、有賀教諭、太田さん、馬上教諭。左端は斎藤靖教頭



「いわきの課題解決を目指したい」と
意気込む太田さん

太田さん「地域振興に貢献」

好間高3年の太田恭平さん(18)が、11月29日に発表された福島大の推薦入試に合格した。同校から同大の現役合格者が出るのは1986(昭和61)年以来32年ぶり。太田さんは「大学で多くのことを学び、いわき

好間高32年ぶり 福島大現役合格

市の地域振興に貢献したい」と意気込む。
地方行政を学ぶ校外活動に参加する中で「自分も地域の課題を解決したい」という思いを抱き、地方行政や本県の課題を学べる同大への進学を志した。入学が

決まった同大行政政策学類では、原発事故による風評被害や商店街の衰退など、いわきが抱える問題について学ぶつもりだ。太田さんは「いわきの課題を知り、解決を目指したい」と話した。
同校の夏目利江子校長も「将来はいわき市のリーダーとして活躍してほしい」と期待を寄せた。

いわき民報

● THE IWAKI MINPO ●

2018年(平成30年) 11月30日(金曜日) 第22063号

福島大に合格した太田さん④



太田さん(好間高3年)福島大に推薦合格

32年ぶりの快挙、努力たたえる

好間高3年の太田恭平さん(18)＝平＝が29日、福島大(福島市)に推薦合格を果たした。好間高から福島大に合格するのは32年ぶりの快挙で、国立大としても18年ぶりとなり、夏目利江子校長らが太田さんの努力をたたえている。

好間高3年の太田恭平さん(18)＝平＝が29日、福島大(福島市)に推薦合格を果たした。好間高から福島大に合格するのは32年ぶりの快挙で、国立大としても18年ぶりとなり、夏目利江子校長らが太田さんの努力をたたえている。

こうした経験を基に、地域課題の解決を学びたいと考え、福島大を志望することを決めた。担任や学年主任と準備を重ね、本番での小論文や面接を経て、人文社会学群

行政政策学類に進学できることがなかった。「今はまだ実感がわかないが、半年間小論文や面接の練習をしてきたかいがあった」と話す太田さんだが、大学を卒業した後の夢は市役所に就職し、古里の振興に努めたいと語る。

太田さんは昨年8月、郡山市で開かれた「未来の開拓創伝わかもの創生会議」に参加し、いわき市と郡山市の高校生によ

夏目校長も「未来をひらき、いわき市のリーダーとして活躍することを期待している」とエールを送った。